

昭和村人口ビジョン

平成 27 年 12 月

福島県昭和村

目 次

1	人口ビジョン策定にあたって	1
2	人口の現状分析	2
2-1	総人口の現状及び将来推計	3
2-2	年齢3区分別人口の推移	4
2-3	転入転出・出生死亡の推移	5
2-3	出生死亡・転入転出の推移	6
2-4	年齢階級別人口移動の推移	7
2-5	人口ピラミットによる分析	8
3	将来人口の推計と展望	9

1 人口ビジョン策定にあたって

国は人口急減・超高齢化という大きな課題に対応するため、平成 26 年 12 月、地方創生法に基づき、「まち・ひと・しごと創生長期ビジョン」並びに「まち・ひと・しごと創生総合戦略」を閣議決定し、2060 年に 1 億人程度の人口を確保することを掲げました。

人口減少は本村のみならず、上記したように日本全体として喫緊の課題となっています。日本の人口は平成 20 年をピークに年々減少しており、少子化による若年人口の減少と老年人口の増加を伴いながら今後さらに進行し、2060 年代には現在より二千万人以上が減少すると推計されています。

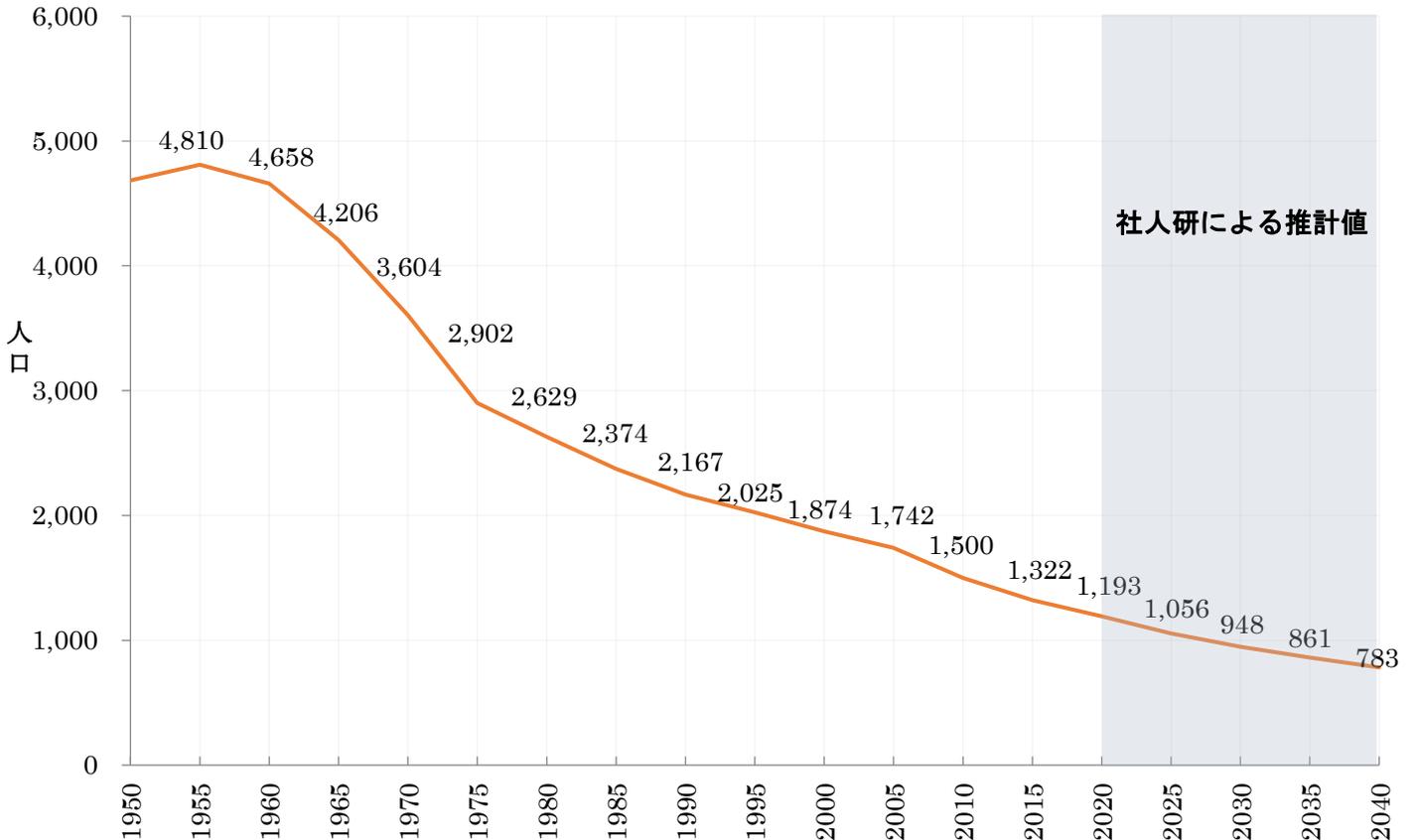
こうしたなかで、昭和村では急速な少子高齢化の流れに対応するとともに、人口の減少に歯止めをかけ、活力ある地域コミュニティを維持していくことが求められています。

この人口ビジョンは、昭和村における人口の現状を分析することで、今後目指すべき将来の方向性や取り組み・人口の将来展望を、村民の皆様と共有するために策定しました。

2 人口の現状分析

2-1 総人口の現状及び将来推計

図表1 総人口の推移



本村の人口は、1955年(昭和30年)の4,810人をピークに減少傾向が続き、2015年(平成27年)の国勢調査の速報値では、1,322人となっています。

国立社会保障・人口問題研究所(以下、社人研)が公表した推計によると、本村は今後も人口減少が続き、2030年には1,000人を下回り、2040年には783人になるとされています。

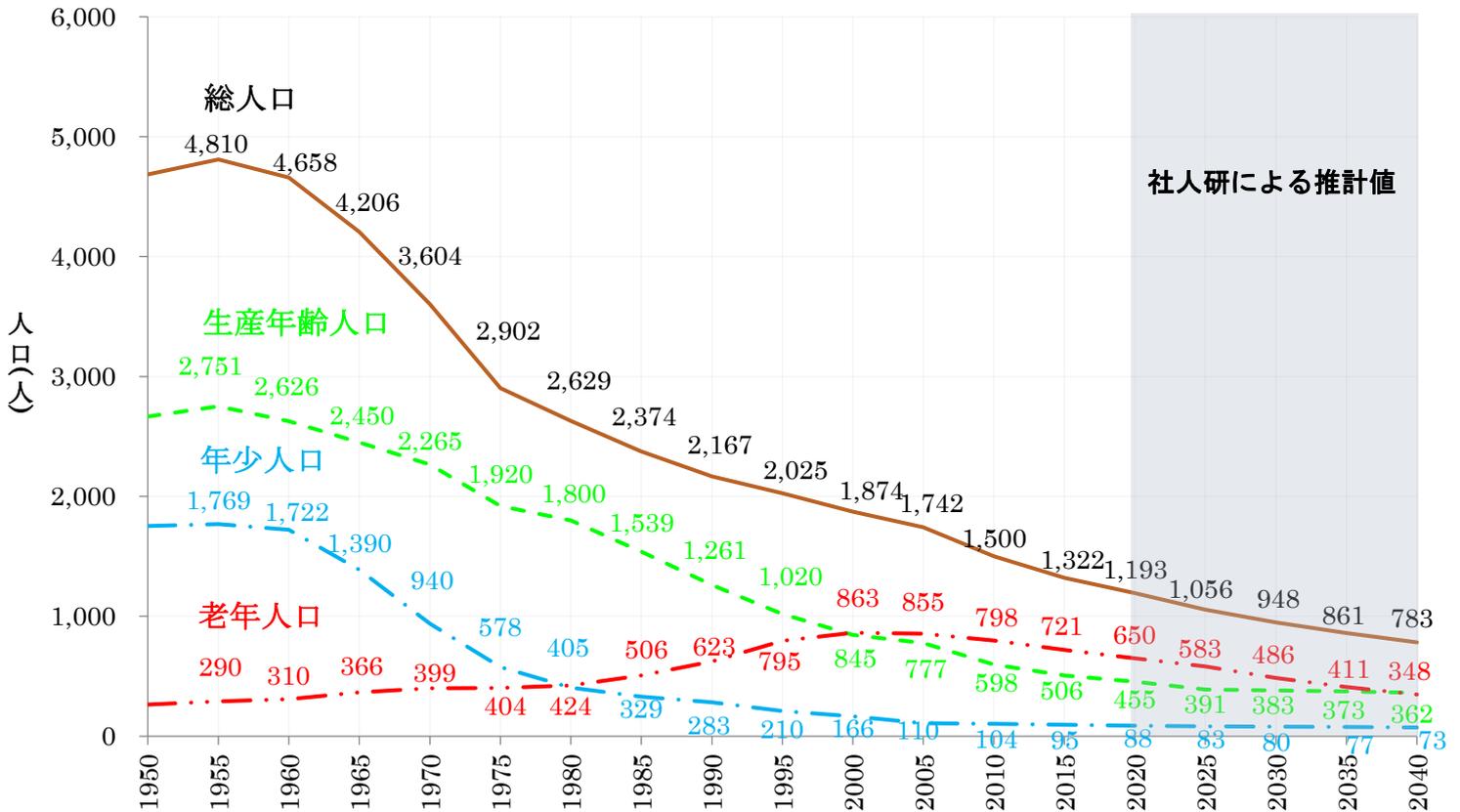
国勢調査ベースの減少率で見ると、2005年～2010年(平成17年～平成22年)で7.5%の減、2000年～2010年(平成12年～平成22年)で20%の減となり、厳しい状況が続いています。

人口減少の要素は出生・死亡の差による「自然減」と転入・転出の差による「社会減」があり、今後いかにしてこれらの差を少なくするかが課題となっています。

2 人口の現状分析

2-2 年齢3区分別人口の推移

年齢3区分別人口の推移

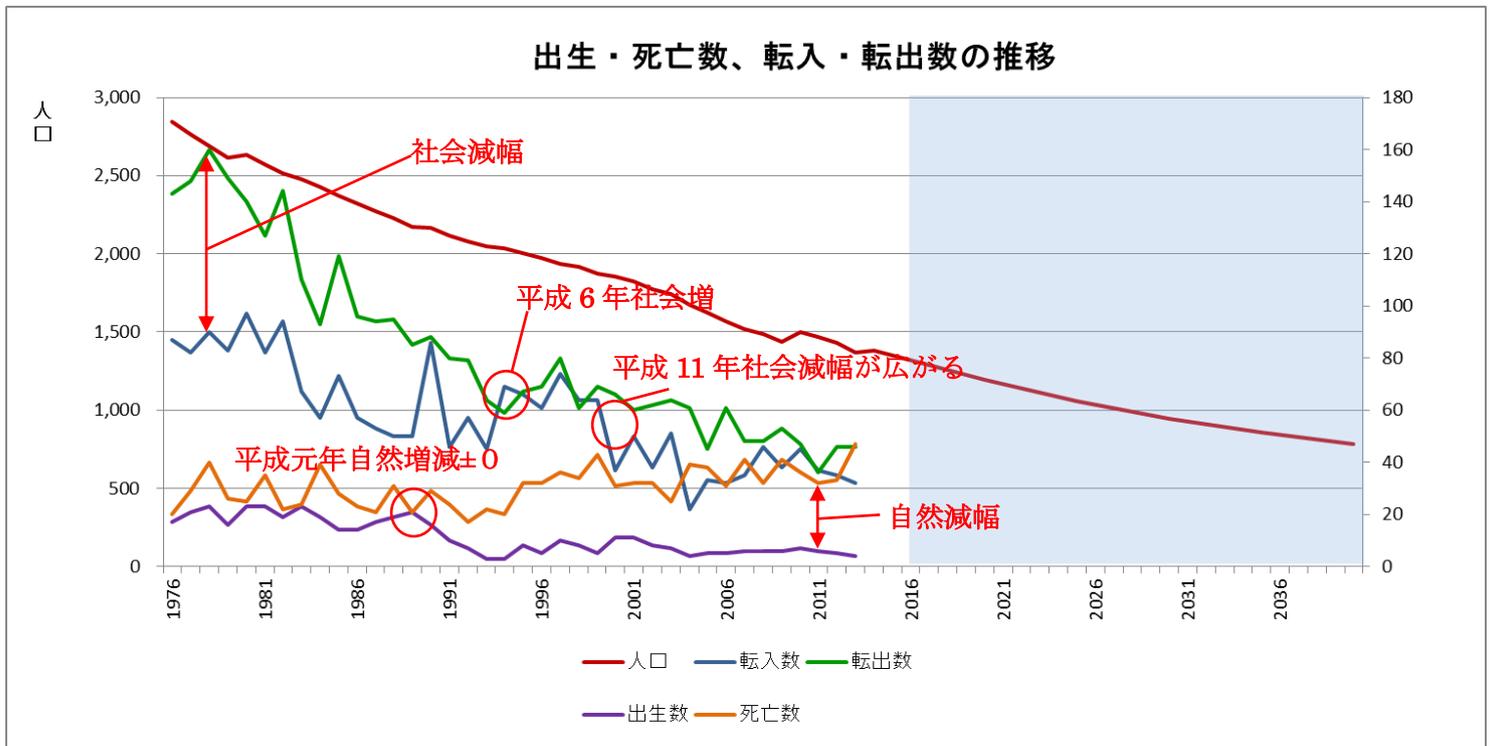


年齢3区分別人口では、1955年（昭和30年）より年少人口（0～14歳）、生産年齢人口（15～64歳）の減少傾向が続いています。

老年人口（65歳以上）は、生産年齢人口が順次老年人口に移り、平均寿命も延びていることから、1982年（昭和57年）より急増し、高齢化が進んだことがわかります。2002年（平成14年）には生産年齢人口も上回り、人口構成で最も多い年齢層となりました。

2 人口の現状分析

2-3 出生死亡・転入転出の推移

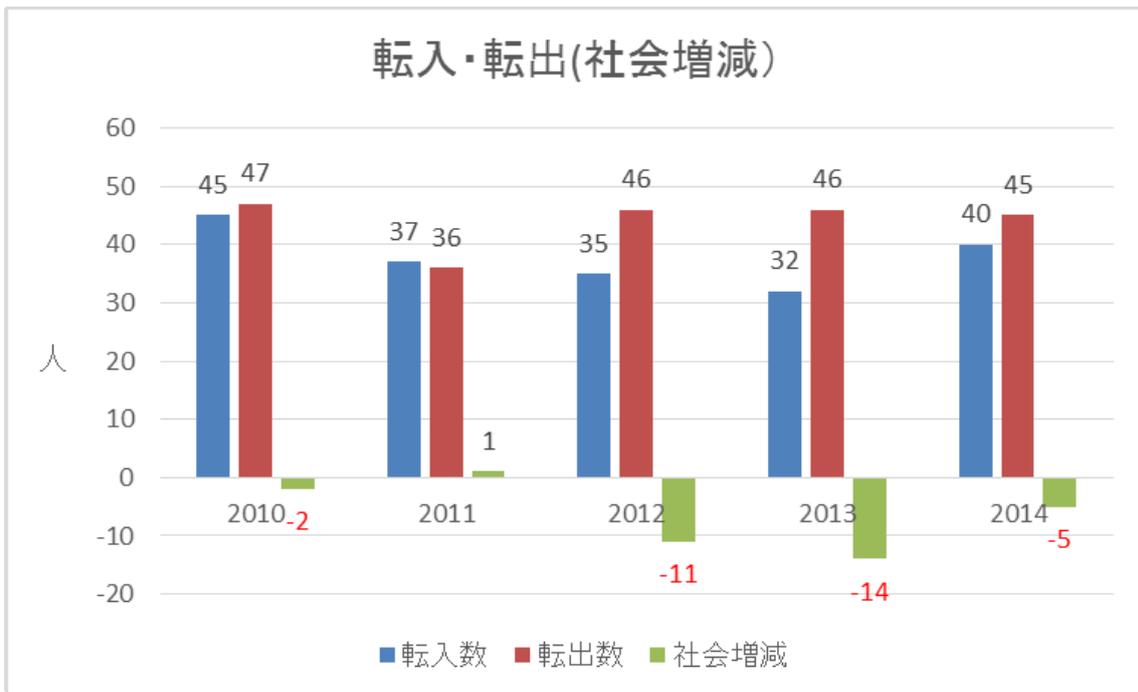
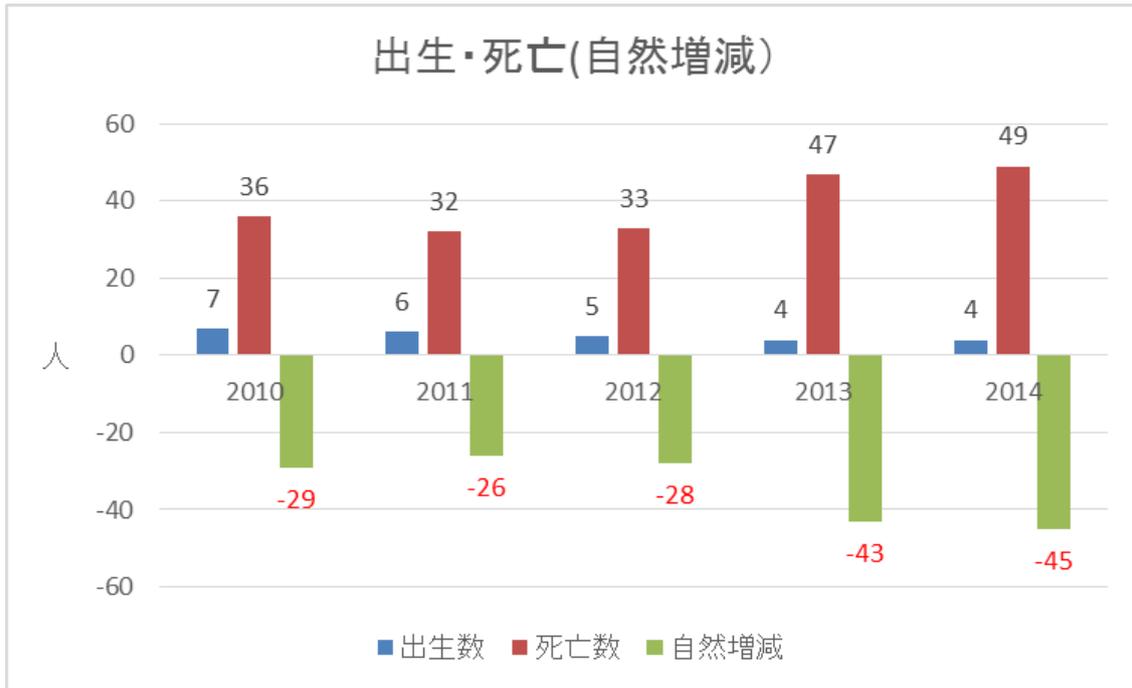


出生数は、1988年（昭和63年）より急激に減少し、その後は若干の増減はあるものの主に減少傾向にあります。死亡者数は、増減を繰り返しながら毎年30～50人前後で推移していますが、2013年（平成25年）には転出数を上回り、今後も転出数を上回ると推測されます。

本村において自然増減（出生数－死亡数）は、死亡数が出生数を大幅に上回る自然減が続いており、人口減少の一番の要因となっています。また、転入・転出は、転出数が転入数を上回っており、社会増減としては減少傾向ではありますが、近年ではからむし織体験生事業や宿根カスミソウ栽培における新規農業参入推進事業などにより村外からの転入者が一定数おり、社会増減の差が以前より少なくなってきました。

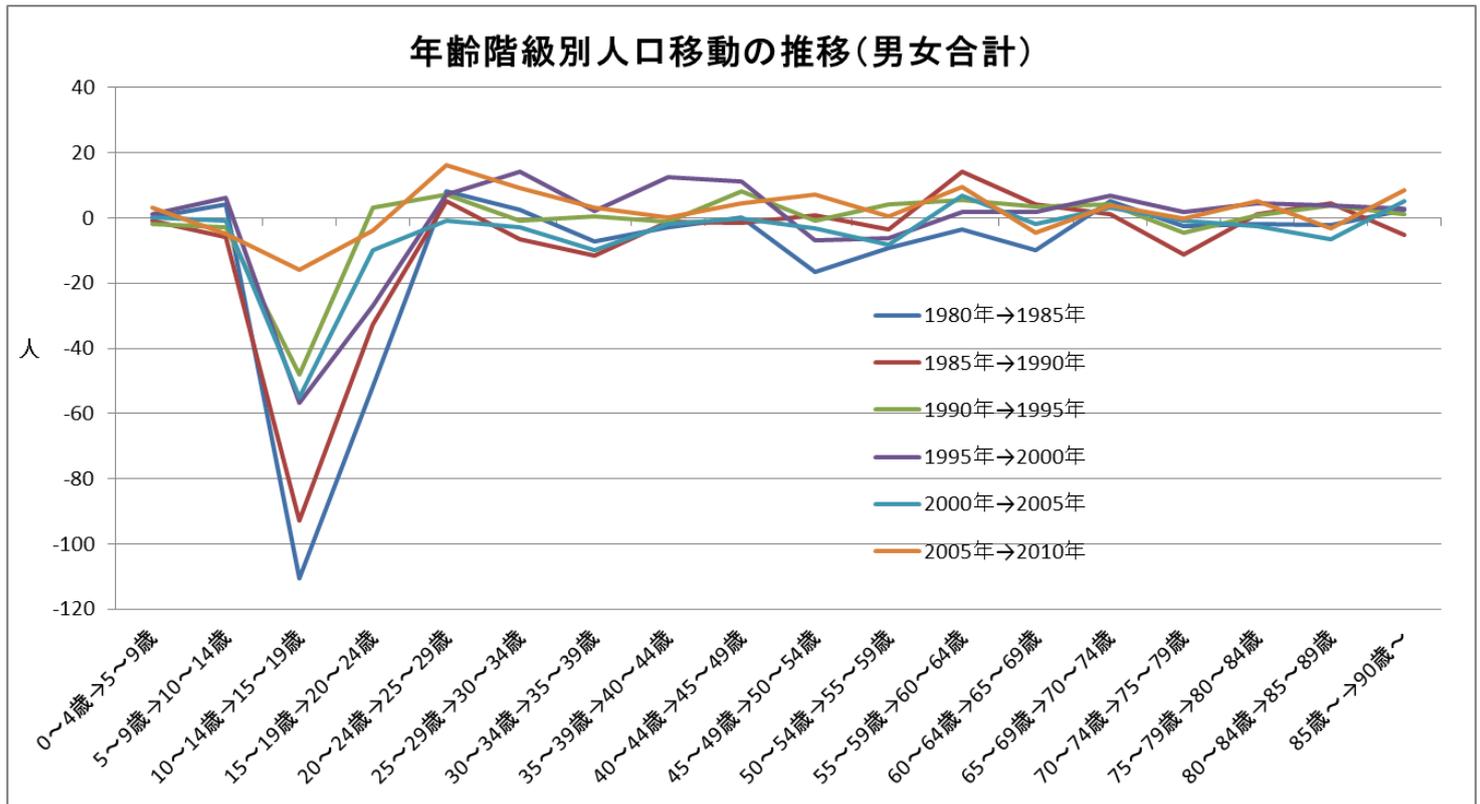
2 人口の現状分析

2-3 出生死亡・転入転出の推移



2 人口の現状分析

2-4 年齢階級別人口移動の推移

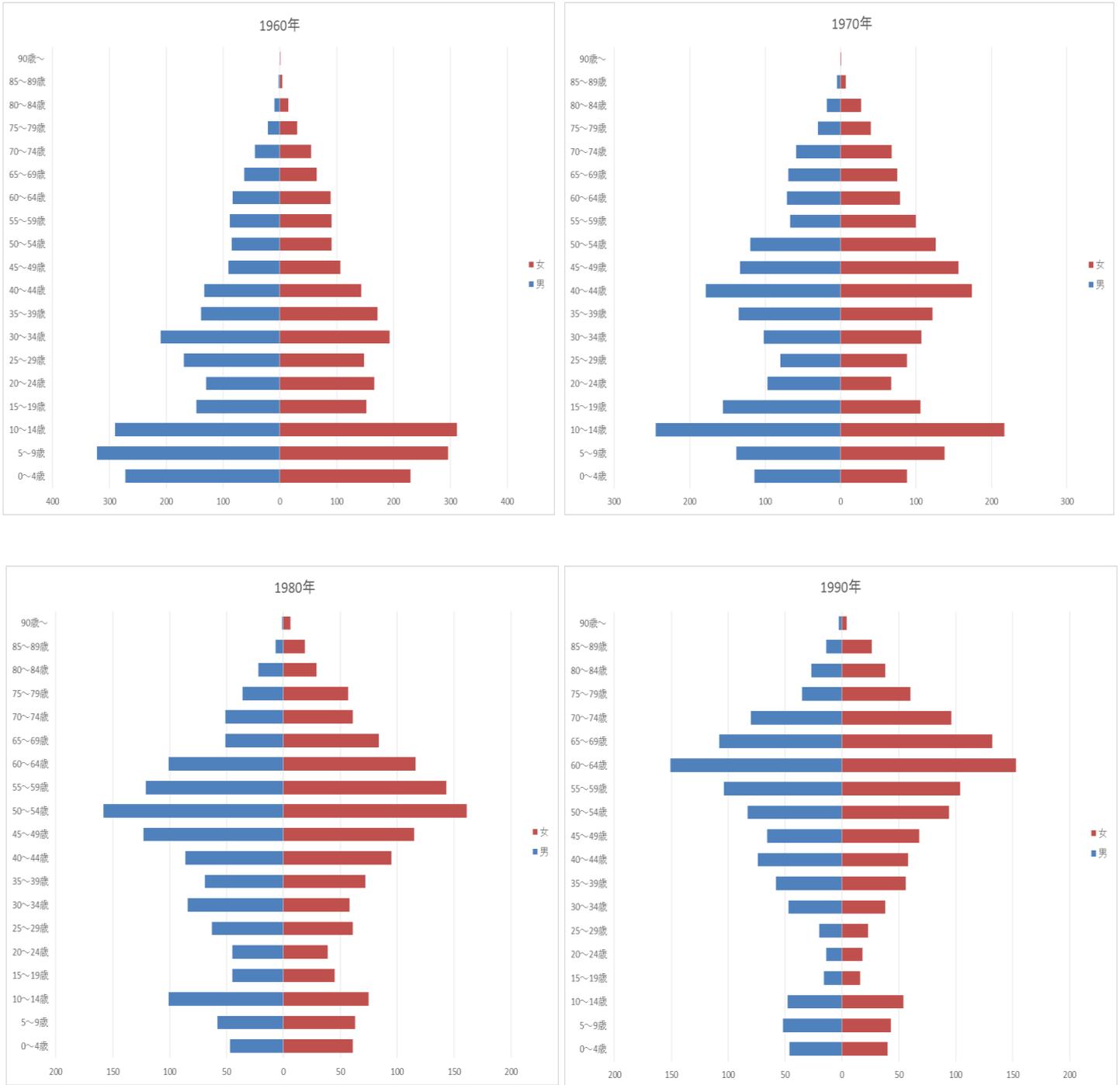


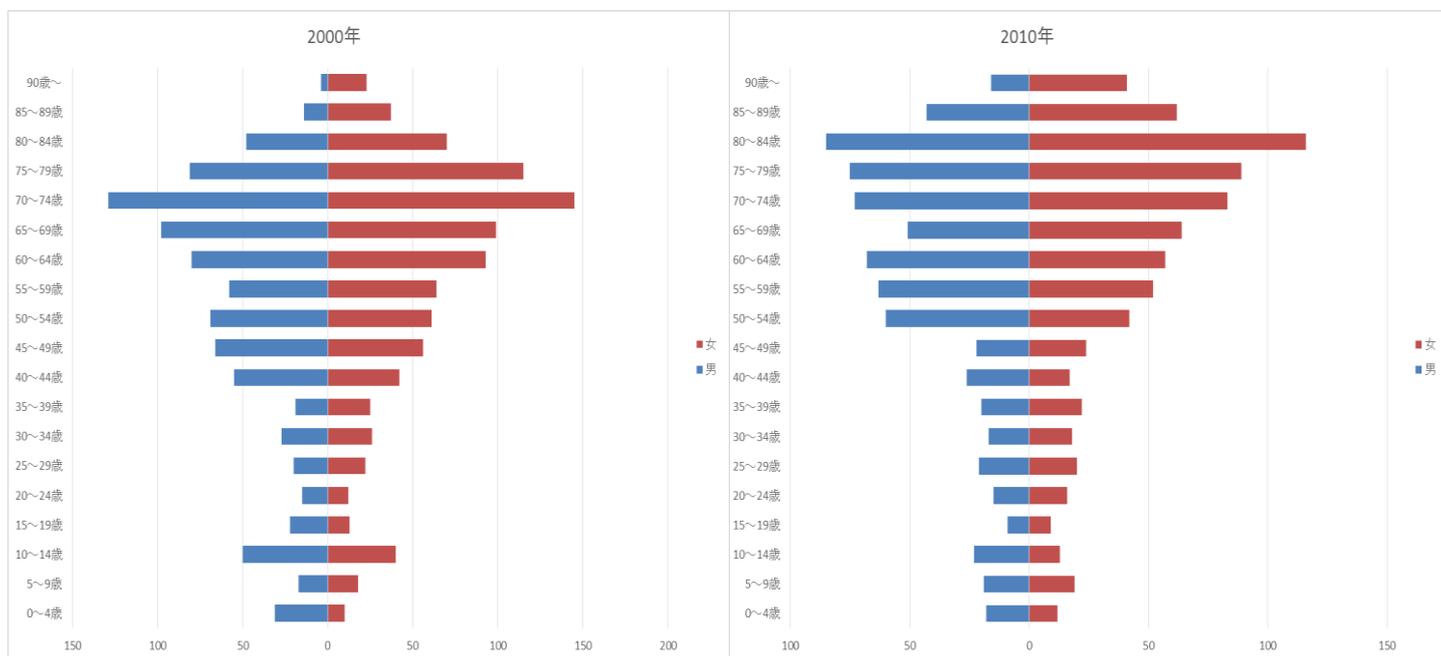
10~14歳から15~19歳になるときに、15~19歳から20~24歳になるときには、大幅に人口が減っています。転出の主な原因は、村外への高校及び大学進学や就職が推測されます。これは近隣町村や全国と同規模自治体を見ても同様の動きをしており、本村だけが特化した動きでないことがわかります。

一方、20~24歳から25~29歳になるときに、25~29歳から30~34歳になるときには、人口が増えています。進学から地元への就職等によるUターンや、からむし織体験生事業や新規農業参入推進事業などで転入してきたことも推測されますが、前出の人口減少分を取り戻すには至りません。しかしながら、いずれの年でも同じ動きをしているため、今後本村としてもUターンしやすい環境作り、郷土愛を育む教育など、若者がより多く村へ移り住むような施策・事業を行わなければなりません。

2 人口の現状分析

2-5人口ピラミットによる分析



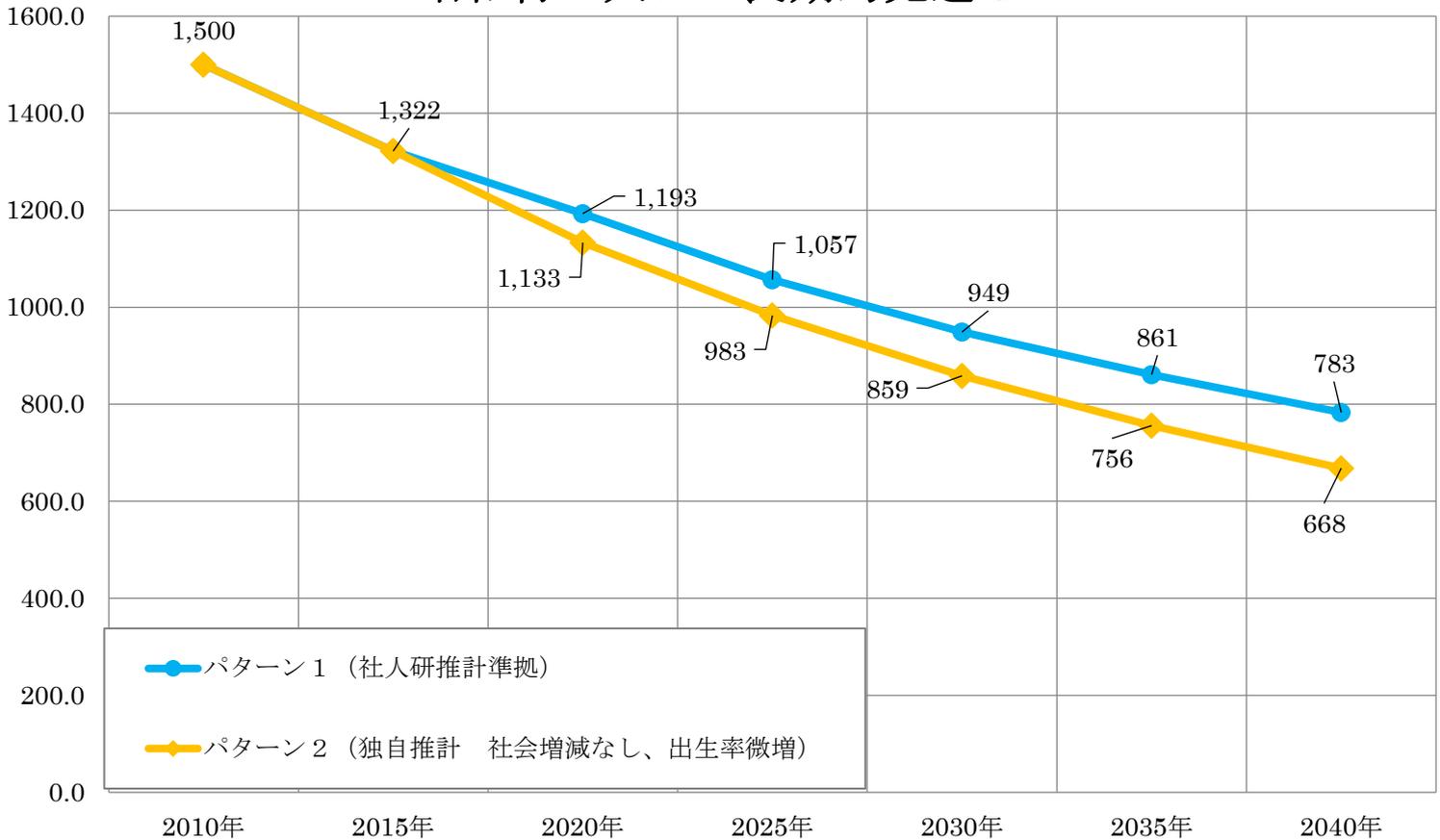


本村の人口構成をピラミット状のグラフにし、1980年（昭和55年）と2010年（平成22年）で比較してみると、1980年（昭和55年）に男女ともに多かった50歳～54歳までの年代が、現在は80代へ推移しており、人口構成も変わらず最も多く、典型的な逆ピラミット型の人口構造になっている。また、10～14歳までの男女が30年後の2010年（平成22年）には半数以下になっています。前出したように進学や就職で村を出た若者が半数以上戻ってきていないことが読み取れます。これらの数値を見る限り、0歳～14歳の年少人口は全体の7%と極端に少なく、15歳～64歳の生産人口は40%、老年人口が53%と特に高くなっている本村において人口減少の要因である自然減は、近い将来現在より増えると予測されます。しかしながら、それも一時的であるため、現在のような極端な逆三角形のような形にはならず、ある一定時期からは現状より低い数字で推移する見込みです。

これらの人口の現状分析から、本村は今後も少子高齢化が進むと思われますが、移住・定住対策による社会増を目指し、安心して子育てが出来る環境の整備などを通じて出生数の増加を目指し、自然減を少なくすることで、人口減少に歯止めがかけられると思われます。

3 将来人口の推計と展望

昭和村の人口の長期的見通し



社人研（パターン1）と本村の独自推計（パターン2）を比較してみると、2040年の人口は、パターン1が783人、パターン2が668人となりました。社人研の推計では現状の社会増減より増加、出生率も微増を見込んでいますが、本村の独自推計では近年の現状を鑑み、社会増を見込まず、出生率を微増させたものになっています。

しかしながら、いずれも2040年には総人口800人を切っており、地域社会の存続が困難になる集落がでてくる恐れがあります。全国的に課題となっている少子高齢化や、寿命という人口の自然減に対し、確実に効果のある歯止めをかけることは非常に困難です。人口減少は地域の活力や村づくりへの住民意欲の低下に直結し、集落の維持やコミュニティ機能の存続に大きな影響を及ぼすことが予想されることから、行政・村民が喫緊の課題であることを再認識し、将来人口規模について次のとおり展望します。

◎合計特殊出生率 1.80

村民が安心して出産・子育てが行えるよう、環境の整備・各種制度の充実を目指します。

◎社会増年間 10 人

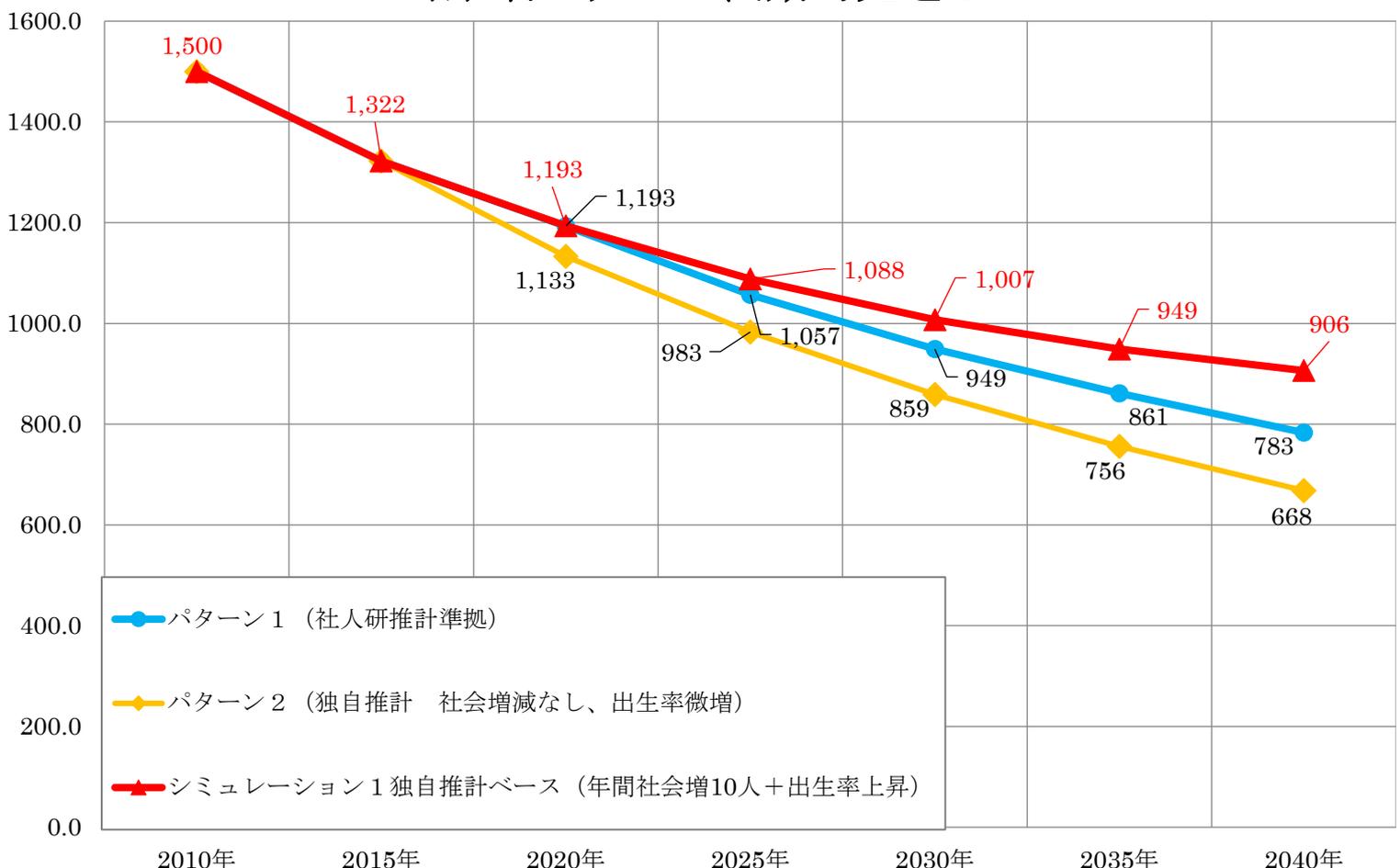
移住（UIJ ターン）環境の整備に取り組み、新規就農者や「からむし」を契機とした若い世代の転入の促進を目指します。

◎2040 年総人口 900 人以上

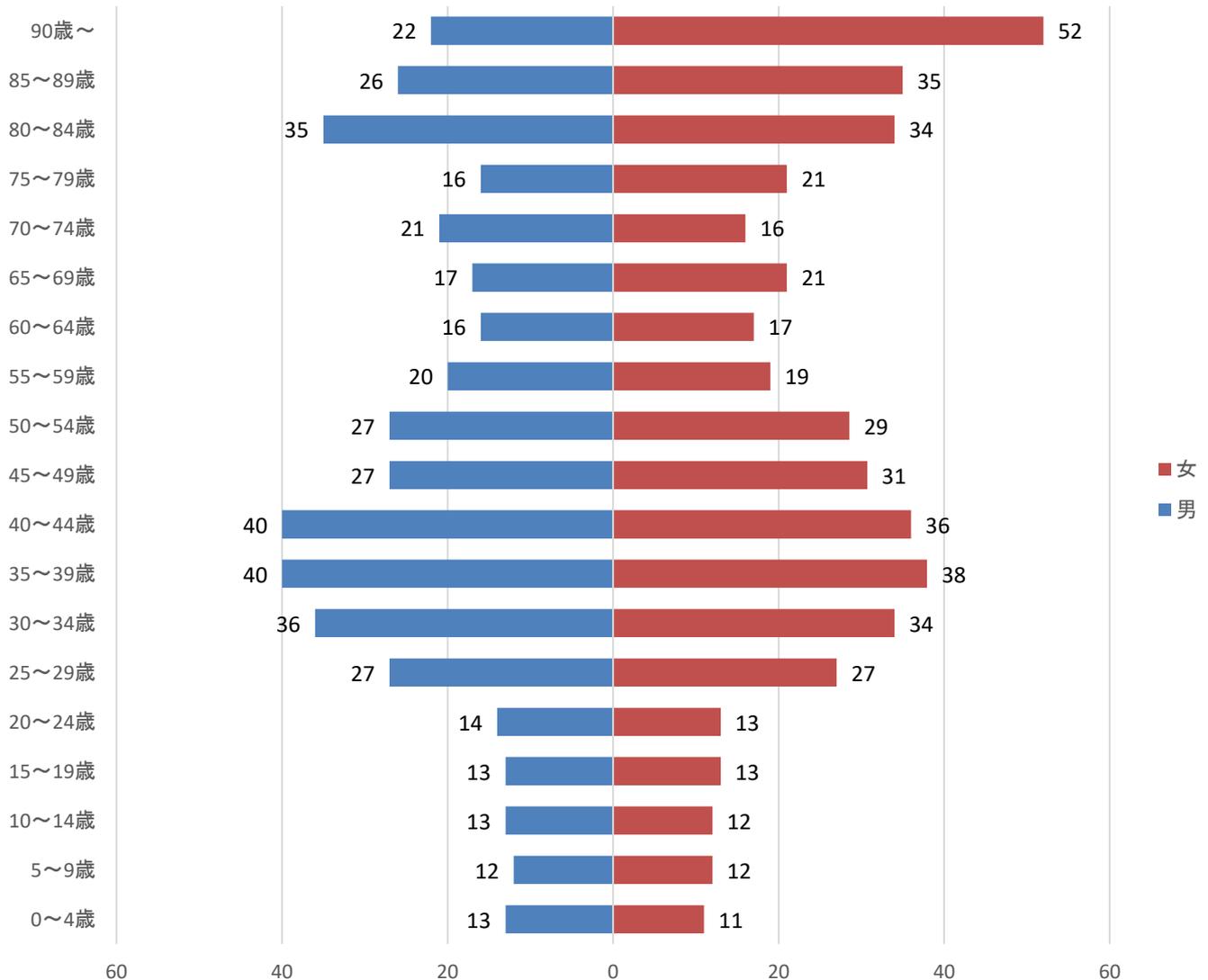
2040 年に総人口 900 人以上を維持するため、上記取り組みの他、昭和村の特性を活かした仕事づくりを行い、若年層が村に戻り生涯にわたり生活が出来るよう努めます。

以上の取り組みにより、総人口について、シミュレーション1の通り 2025 年で 1,000 人以上、2040 年で 900 人以上を目指します。

昭和村の人口の長期的見通し



2040年における昭和村の目指すべき人口構成



昭和村では、人口ビジョンと併せて「昭和村まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定し、雇用・定住・子育て・伝統文化の継承をテーマとした目標を設定しました。これらの取り組みを具体的に推進することで先述した展望が達成されると共に、バランスのよい人口構成を目指し、次の世代まで昭和村でいきいき暮らせる仕組み作りを確立したいと考えます。